

**令和 6 年度第 1 回 明石市文化財保存活用協議会
議事概要**

I. 日 時：令和 6 年 5 月 21 日（火）10:00～11:35

II. 場 所：明石市役所市議会棟第 3 委員会室

III. 出席者

区分 (法第 183 条 9 第 2 項)	氏名	所属・役職	備考
学識経験者（第 4 号）	村上 裕道	京都橘大学 教授	会長
	森本 眞一	神戸学院大学 非常勤講師	副会長
商工関係団体（第 4 号）	中塚 雅明	明石商工会議所 事務局長	
観光関係団体（第 4 号）	合田 和央	明石観光協会専務理事	
その他教育委員会が必要と認める 者（第 4 号）	西海 英延	文化財所有者：宗教法人住吉神社 宮司	
	藤本 庸文	明石市連合まちづくり会協議会副会長	
オブザーバー	山下 史朗	兵庫県企画部地振興課歴史資源活用専門官	

事務局：明石市市民生活局文化・スポーツ室

（箕作美幸市民生活局長、

中田章雄文化・スポーツ室長、

池田一峰歴史文化財担当課長、田川聡司歴史文化財担当係長）

明石観光協会（木村公輔事務局次長）

明石市政策局広報プロモーション室シティセールス課（秋末稔室長兼課長）

明石市都市局都市整備室（西田考樹調整担当課長）

明石市教育委員会学校教育課（和田徳幸課長）

IV. 議事概要

1. 開 会

2. 報 告

報告事項 明石市文化財保存活用地域計画に基づく 2023 年度の実績及び 2024 年度の予定について

【（1）全市的な取組について】

森本委員：毎年小中学校社会科の先生方を率いて明石周辺を歩いていて、昨年度は、小学校の先生と江井島の酒蔵とか魚住の港を歩き、中学校の先生とは大久保の宿場を歩いた。

小学校の社会科担当者会では、各小学校区で地域の教材を発掘して、それを授業で紹介した上で冊子を作っていて、昨年度で 4 冊目ができた。そういった形で地域の教材開発、子供たちに文化財などの学習になる教材を見つける取り組みがされている。

明石教育研究所が中心となって明石の小中学校 40～50 名の新任先生方に対して行っているフィールドワークが昨年度はなかったが、明石出身の先生方が 10 名ほどしかいないことから地域教材を開発する上では大事なことなので、実施を検討してもらいたい。

村上会長：そうして作られた冊子はどのように蓄積しているのか。

森本委員：各校の担当者が持っていて、それを参考にして自分たちの学校で今後どのようにしていくかを考えている。冊子はすべてが図書館にあるわけではないかもしれないが、研修センターにはあると思う。

村上会長：事務局には、お金をかけずにスキャナーでデータ化するなどして、大切に保存活用してもらいたい。

西海委員：今年の 5 月 1 日春祭りでの奉納能楽会は 48 回目になる。それは住吉神社能楽会という組織ができてからのことで、その前から地域で能楽をする方がいろんな方法を考えて試すうちに、神社の舞台を文化財という意識もなく使うことを考え、地域の方々が中心になって能楽を行うにふさわしい舞台に作りあげた。

その後、能楽会という組織が出て、能楽のレベルが高くなってきて、どんどん使い込んでいくことになる。舞台では白い足袋を履いて、特にプロの先生は床の上を擦って歩くので 黒くなってしまふ。我々は舞台を保存管理する立場として、一生懸命掃除する。そうすると、文化財でああいう古い木は磨けば磨くほど光って艶が出てくる。我々人間が家の中で炊飯するとかお風呂を炊くとか生活すると、木自体にそういう煙とか汗とか何かついてそれを掃除して木自体が どんどん黒くなる。我々の近くにも安藤家のような家があって、ドアをガラガラと開けて、広い土間があって、ちょっと広い床上があって、そういう中で生活されている土間とかを見ると黒く光っている。だから、人間がその生活の中でそういう古いものを大切にしながら掃除したりすると光ってくるといふ風に、関心を持って保存、管理すると様相が変わってくるのだ。

村上会長：今の西海委員の話はなかなか事業の中に組み込めないところがある。事務局にはよく聞いてもらいたいと思う。我々の言葉でリビングヘリテージという。一番大事なことは今話してもらったので、どうやってそれを事業に組み込んでいくか考えてもらいたいと思う。

藤本委員：地域の勉強ということで、まず、学校から新しい先生方を私らの地区の歴史的なものがある所などに案内してもらいたいと依頼されている。放課後の時間なので、非常に短い時間で何回にも渡って連れて行き、その後、私が子どもたちを連れて行くことになると思う。中学のトライアルも引き続きある。今月の 28 日には県立大学の交換留学生的な香港の学生が 20 名ほど来て、それも私の方で、まず日本の文化というか祭りの太鼓を見せるということで蔵を開ける。前もオーストラリア人を連れて行ったことがあった。その後 食文化ということで、明石の玉子焼きだけを食へに行くことになっている。それから、2021 年に 1 回目開催して大変好評だった布団太鼓に関する企画展について、今年 2 回目を企画してもらい、去年の秋祭りから岸和田や淡路島全島と、西は姫路、明石もずっと調べていてリストアップしてようやく形ができてきたかなということだ。19 日にも雨の中で対岸の泉佐野に行ってきた、そこの漁師町の祭り也非常に華やかなもので、街は割と寂れているが、祭りは非常に賑やかということは、明石とは逆と感じたので、そのことは反省しないとだめだと思った。

村上会長：瀬戸内海と大阪湾は隣に位置している。明石の隣は泉佐野ということで、古くは高速道路が海だった。今の藤本委員の話は文化圏が同じであると言いたかったことを理解してもらいたい。

中塚委員：事務局説明の中で、4 ページの基本方針 4 の 34 番で文化財マップを今年度（2024 年度）配布するということだが、ただ配布するのではモデルコースを歩いただけで終わってしまいそうな気がする。できれば後ろの説明のところに QR コードを記載してもらいたい。QR コードからリンクして歴史を見るような形を取れば、例えばその前日にちょっと勉強してから歩くとか、興味を持つような形につながるのではないかと思う。これもそんなには費用がかからないと思うので、検討してもらいたいと思う。

村上会長：文化財マップには、QR コードにして「100 年フード」の玉子焼の店屋の地図も入れて欲しかった。これを持って歩いている人は途中で色々な店屋へ入っていくが、マップに 100 年フードの店の地図を入れておいたら、みんなその店に行くようになる。まるで重ね合わせのようになって絶対に喜んでもらえる。それで味を占めたら、観光の方が載せたい方々のデータを QR コードでどんどん突っ込んでいって、これが文化財ウォークからまちづくりウォークに変わっていく。ウォークからまちづくりを始めたら面白いので、今日は合田委員にそれをお願いしようと思った。

合田委員：QR コードの話は協力したいと思う。昨年度の協会の取組みについて説明する。昨年、明石焼に特化したパンフレット「明石焼物語」を 3 万 8,000 部作成して、明石駅前の明石案内所、県内のイベント、また観光パンフレット希望の観光客に配布を行っている。2019 年に本市でも行われた、日本最大のまちおこしイベントの B 1 グランプリが、コロナ禍以降初めて、三重県の四日市市で再開をされたので、そのイベントに民間有志で結成された「あかし玉子焼ひろめ隊」と協力して、明石の魅力を現地で発信をしてきた。当日のイベント会場での PR に加えて、名古屋方面のテレビ・ラジオ出演、新聞社への表敬訪問を実施した。それに加えて、明石焼については、本市民の意識と実態を探るために市民アンケートを行った。そのアンケートの内容は、明石焼・玉子焼の呼び方（呼称）や、地元の自慢や誇りに思うか、また、明石焼にまつわる食文化の情報や特徴などを問いかけて、約 500 名の方から回答をもらった。明石焼と玉子焼の呼び方の割合については、明石焼が 4、玉子焼が 1 という結果で、明石焼という呼び方で一般に広く理解されているということや、また 9 割の方が地元の自慢や誇りに感じているということアンケートで答えてもらって、非常に嬉しい結果だったかなと思っている。ただ、特徴については、だし汁につけて食べるとか、上げ板に載せて提供されるという情報は、多くの方が知っていたのだが、材料にじん粉が使われているとか、たこ焼きよりも先に誕生したとか、文化庁の「100 年フード」に選ばれていることなどの情報は、まだ知られていないというような結果だった。これは協会としては、引き続き 明石焼の情報発信に取り組んでいきたいと思っている。

山下オブ：明石市は人口が増えていて、特に若い世代がたくさん入って来ているという。森本委員によれば、先生に地元出身の方が少ないとのことである。そうすると、明石市のことを情報発信すると同時に市内で地元出身でない方にももっと明石市のことを知ってもらうことが大事じゃないかと思っている。その明石市を知ってもらう一つの方法として、明石市内だけではなくて、何か関係するところ、例えば、港町同士であることなど、繋がりがあるところと比較しながら特色等を考えてもらって理解しやすいのではないかと思う。私も今は兵庫津とだけ関わっていて、それだけではなかなか理解しにくいのだが、その同じ時代の関係するところ、例えば明石とは海上交通でずいぶんと関係している。そういう視点で見ると、また違ってきたことが理解できたりと、一方的にこちらから伝えるというよりも、興味を持ってもらうきっかけを用意で

きるのかなと個人的に思う。

それから、明石公園では集客力のあるイベントがたくさん行われ、大勢の人が入ってくるが、先ほど村上会長が言っていたように、マップにいろんな情報を刷り込んで、文化財だけじゃなくて、他にももっと楽しめる食事ができるのだとか、そういうことも一緒に打ち出していったらいいなと思った。現役時代に文化財課で仕事をしたら、どうしても文化財向きに物事を考えてしまっていたが、今は地域振興課というところにおいて、全く発想が変わってきて、観光も含め地域についての色々な情報を通して地域を知ってもらい、そういう視点で文化財マップの位置付けができるのではないかと考えている。

村上会長：今の山下オブバイザーの話でいうと、次の見直しの時には、資料4ページ27番のような広域交流は広げていくような方向を考えておいてもらいたいと思う。それから、その財源については、9ページのところの文化庁の補助金が結構使えるので、それとリンクすれば、後はやる気だけで全部できる。他にも、お金がかからないことと言えば、今の山下オブバイザーの話を理解してもらいたいと思う。

【(2) 重点区域における取組について】

森本委員：看板についてである。私が早朝に高丘の池の周りを歩いていると、高齢者の方から「この窯跡の看板いいですね。やっとできましたね。」と言われてとても嬉しくなった。順次看板を作ってもらえたらありがたいと思っている。関連して、各小学校区でまちづくり協議会があって、その中で看板を作ることがある。私は、今、魚住小学校のまちづくり協議会に関係していて、そこで今年3つ目の看板を作っている。それで、それを作って親子であるいは地域の方と一緒に看板をずっと回るウォーキングを行って案内して、クイズをしたりしている。清水小学校区も看板を作っていて、市のまちづくり協議会と連携して予算を使ってもらっているようで、その姿勢がいいかなと思ったりしている。それから希望することがある。先日には、大阪の二人の方が明石駅の南側の看板を見て、明石城はすごく小さいと話し合っていた。看板の地図は中堀があるけど外堀がない。だから明石城の本当のスケールがわからないのではないかと考えた。今日配布された「文化財ウォーク」のパンフレットの地図には外堀が出ている。どこへいえばいいかわからないが、明石駅の南側に一番多く観光客が行くので、是非、看板に外堀を入れて、明石城のスケールがわかるようにしてもらえたらありがたいなと思った。

西海委員：7ページのGでは、学生のどのチームのアイデアが良かったか、見に来られた人の声を聞かせてもらいたいとして、丸を入れている。見に来た人は声だけ聞かせるのではなくて、丸を入れる、いわゆる動作をしている。見に来た人は、動作をすることによって、丸を入れたということと何のために入れたかという記憶が残る。私は80になっているが、自分がしたことが何のためにかという繋がりがなくなってくる。だから、繋がりがなくなるということは、きちんとした動作をしてないということだ。Gでは見に来た人に丸を入れさせることによって、学生側にとっては、見に来た人がどのように感じたのか調査になるのだろう。それよりも、この丸を入れた人が、いろんなものを見せてもらって帰っても、何のために丸を入れたのかという記憶が残る。だから、いろんなものに対して時間もかかるし、面倒もかかるが、そういう動作と観光とかを一緒にさせるようなことは、いいことと感じた。

村上会長：6ページの重10番は、空き家を活用した展示会、講座の開催など書いているが、これは

文化財の守備範囲だけのことで書いている。そうすると、7ページの右下の市長達の「空き問題とまちづくり」というワークショップのテーマは守備範囲外のことである。先程の文化財ウォークはまちづくりウォークにしないとだめと言っているのと同じで、我々は種作りだけ行って、育てて広げていくのは違う部署の方が行っていくので、どのようにしてバトンタッチというか、お預けするのかを考えておかないといけない。この10番で形を決めて長くやり過ぎると、足を引っ張る話になるので、そこはよく考えておいて欲しいなと思っていた。だから、どのようにまちづくりを考える人たちの方に渡していくか、それを考えていって、それで、我々の種作りは常にできるので、そうすると違う場所を見ることだとか、常に種作りをし続けるのが僕たちのセクションというような感覚でやってくると、街全体が面白い場所になるので、ちょっと作戦を考えつつ行ってもらえるだろうか。さっきから言うように、他の部署の方に預けないといけないのだ。さっきのQRコードの話も観光の方に渡さないといけないし、どうやって部署をつないでいくのかについては、種作りの役目の文化財がわかっておくべきだろう。繋いだ後については観光のセクションが必ず計算している。みんなそうだが、文化財の方は計算しなくても心の方で優先していけるため、種まきは文化財がしやすいのだが、最後の方は、文化財がそろばん勘定をできない人ばかりなので無理なのだ。地域計画も3年目に進んできたので、そろそろそういうスイッチのさせ方を考え始めてもらいたい。この重点地区でどうしても言おうと思っていた。

藤本委員：文化財ウォークの地図を見るとわかりやすいのだが、明石川の東側の外堀がそのまま道になっているのだ。稲原氏にいつもこのことについての看板を出していくことで何回も言っているが、なかなか実現しない。子供たちにはそこを歩いてここは外堀だったと説明するが、やはり看板があった方が多くの人にわかってもらえる。看板のことでいろいろな街に行くのだが、堺市が非常に進んでいる。大きくて見やすい。明石の看板はバラバラで、あるのかないのかわからないような看板が多いので、やはり、きちんとしたものを出してほしいと思う。看板でも色々千差万別なので、統一性があまりないという感じがして、残念に思う。税金をしっかりと使っていいものを作ってもらいたいと思う。それから、企画展関連では、大蔵谷の穂蓼(ほたで)の太鼓が明石市内で一番古いのだが、いろいろ調べていくと、昔の旧城下町の中の淡路町の太鼓らしいことがわかった。ほとんど表に出てこなかったのは、こういうことだろうと思った。それと淡路で一番古い太鼓が文化6年で対岸の松帆というところにあるのだが、淡路はそれが一番古いやつだと大変自慢する。そのことも何回も足運んで調べていくと、長老が自分の祖父から聞いた話では、明石の方から持ってきたというような話があった。非常にそうするとやっぱり明石の方が古いかと思う。愛媛の南予に四つ太鼓というものもあるけど、それも文献では明石から船で運んできたということで、大阪からこっちの方には海の道を通して明石の方へ運ばれてきているのではないかという感じがしている。それから、明石焼という名前が出てくるけど、私の認識では明石焼は焼き物という認識がございまして、私は生粋の地元の人間でございまして、昔から玉子焼というのが本場で、明石焼ののれんは潜らない。ここがわかって、玉子焼のお店で20個が入っているものしか食べないのだが、その辺でいろいろな文化がやはり明石も結構古いものがあるのかなと思って、再認識した次第である。

村上会長：今の話は、よくわかったと思う。最終的にどうするのか、明石焼と玉子焼きのどちらか。僕は最後まで2つとも書いてもらっていた方がいいと思う。両方に目配りしてもらえればと思う。

中塚委員：23年度、24年度の重点事業の方だが、やはり小中学校の方でも授業の中で取り入れてもら

い、また、教員への研修を通じて子どもたちに郷土愛を醸成してもらえれば、将来的に、また明石に戻ってきてもらえるきっかけの一つにもなるのではないかと思いますので、引き続き実施してもらえればと思う。文化財活用の方から外れるかもしれないが、長期的な考えで言えば、神戸空港の国際化がもうかなり進んで、工事も進んできている。神戸にも外国人が来ることが多くなってくることが予想される。外国人の方が来られたら、まず神戸の方を観光して、その次、大阪もしくは姫路の方に行って、明石を通過してしまうというようなことが、現実に出てくるかと思う。そこで、外国人は体験型というのが非常に好きだから、例えば、安藤家で1泊して明石の方を巡ってもらうような、例えば地元のそのホテル・旅館業の方とタイアップしてまとまるような形をすとか、外国人を文化財を活用して明石に取り込むようなことができればなと思う。これは今年度ではなくて、5年後でも結構なので、その方に向けて何らかの検討してもらえればと思う。以前、明石公園協会の理事長の伊藤氏が明石の櫓に泊まる計画を考えていたが、なかなかハードルが高いと思う。まだ安藤家の活用の方が現実味あるのかなと思うので、外国人に限らずだが、明石に来てもらうための活用について、今後の検討の一つに加えてもらえればと思う。

藤本委員：明石の港に面した古いお家が残っている。昔からの船町の風情があるお家をなんとか活用してもらえればと思ったりする。今は現役で商売しているが、あのままではもう消えるのが確実である。

村上会長：神戸空港から姫路までの間で海岸べりを見て、民家が建っているところはだいぶ減ったようである。垂水辺りも結構マンション建ったので、ずっと塩屋とか海岸べりに民家を建てていたのがほとんど変わってしまった。考えてみると、昔のこの辺で海岸の瀬戸内沿いのお家の文化的な体験を考えたら、多分ここでしかできないから、それはあの文化財サイドの方が先にも言っていたように種作りで、今藤本委員が言ったようにこういう物件があるという情報提供と、今中塚委員が言っていたように、観光とかにそういう活用できるのではないかという話に繋がりができてくるので、今の話はそのようにリンクしてもらえればと思う。

合田委員：ウォーキングとか街歩きであるとか、うちの観光ボランティアを中心に行ってもらった内容を継続して、24年度も重点的にということで書いてもらっているのも、観光協会としても精一杯協力をさせてもらえたらと思う。ちょっと資料を見せてもらって、この歴史文化クリエイティブ事業の支援とか、ピアノを活用した展示会とか、その辺りはすごく面白いなと思っている。私は前の前の職場が環境室で、メイン事業が廃棄物の処理の仕事だけど、神戸市と一緒に仕事する機会に恵まれて、神戸市もやはりごみの減量とか取り組んでいる。市内にクリーンセンター5つあった国全体を3つに減らしている。神戸市はその残り2つをごみの焼却はしないけど、ゴミの一時貯留所として活用しているということは、クリーンセンターの焼いていた部分というのが使わない施設になっているが、火がついていたら見ることができない施設なので、そこを子供たちに見学をさせるような、それを修学旅行の方とか、そういうところに観光という目線も含めてもうちょっと下げているのをちょっと聞いたりしたので、そういう産業ツーリズム、廃棄物、そういう観点から、この古民家には丸谷市長も空き家問題があり、少子高齢化している社会での問題になっていることと、その絡み合わせでまちづくりに繋げていくことができたらいと思う。そういったところは、文化財の取り組みというのが面白いなと思う。

村上会長：先ほどから船町のこの辺の話はしているけど、色々今まで明石の方は大衆演劇の方でも動いてきているし、新しい動きをだいぶ前から行っているのだ。その辺のインパクトをうまく

行政側が吸い上げてない部分が見受けられたので、その吸い上げ方をうまく考えたら民間の人が結構まだ動けるなと思って見ている。実際そういうことをやっている人達に会って聞いたら、やる気はだいぶあった。そういう裏取りをしてきたので、よろしく頑張ってもらいたい。

山下オブ：各地の案内盤を設置していくというのは、非常に良いことだと思う。だけど、文字数が限られる中で他の情報なども盛り込んでもらいたいとか大変なことを言われたりするので、そういう場合は、QRコード使って情報をいくらかでも提供することをお勧めする。兵庫津ミュージアムでは看板に全部QRコードを貼っている。ところが、もうリンク切れてしまって全く役に立ってなかったりするので、そういうことがあった時には後々どう管理できるかということを中心に決めておかないといけない。兵庫県にも何回も言ったのだが、全くまだ改善されていないので 看板だけは立派だけど、それだけ注意してやっていく必要があるかと思う。それで外国の方が来られているということも、これからやっぱり期待するところがあるだろうし、多言語化がやはりいるように思うが、AI技術を使うとすぐ世界中の言葉に翻訳できてしまう。ただ1回実証実験でやったときには、英語ではなんとなくわかるのだけど、言い回しがおかしいなということがあるかもしれない。でも、他の言語になってきたら 文字も読めないし、合っているかどうか分からない状態になる。ある程度金をかけずに多言語化する方法も考えておいた方がいいかと思った。

村上会長：AIがこの2、3年の間に急激に変わってしまうはずなので、そうなった時には今までの日本語の表記の仕方がとても難しくなる。要するに、機械翻訳にしやすい日本語を考えておいた方が今の山下氏の話では有効になる。だから、そこで行くと文化財で使っていた昔ながらの言葉が、機械翻訳に通らないことが結構出るので、それをどうするか今から考えといたほうがいい。

山下オブ：やはり、英語が一番使いやすいので、英語できちんとしたわかりやすい言葉にしておくと、ほかの言語に訳しやすい。

村上会長：機械翻訳は英語を基準にして全部書いている。仕方ないけど、日本の情緒豊かな文章が一番英語に翻訳しづらいので、その辺は考えてもらえればというところだ。

3. その他

西海委員：私は80になるが、能舞台を毎日見ている。いわゆる四本柱があって、横に梁がある。その梁をあまり関心 持って見たことなかったが、気がついて関心持つとすごくきれいだと気付く。木の材質がよくわからないが、木目がものすごく綺麗だ。3メートル 4メートルある梁に木目がずら一つと川のように出て、ふと見た時に梁の彫刻の流れを見てみると、その後ろにその梁の木の材質に沿って木目がある。それで、作業する人は木目に沿って彫刻している。私は今まで何回も見ていて気付かなかったが、すごい木の材質を使っている。それで、大工に木の材質について訊いたが、今の大工は木の材質がわからない。昔の大工はどういう木かわかっていて、その木目に沿ってきちんと作っている。だから、見方というのは文化財についての気付きにつながるということで大事だ。私自身はそんな感じがする。

村上会長：大工は、木を切る時に、木目を見て大体どこに彫刻の模様が来るようにしようかと、最初に静座した時に大体考えている。やはり木は必ずねじれるので、どっちにねじっていくかというのも分かっているから、そのねじりの方向に合わせて彫刻の話も全部しているので、おっしゃ

るとおり大工はそのとおりしている。ただそういう話が海外に行くとうわらない。それでそういう話を聞いたら非常に喜ぶ。海外の文化にそういう発想がないので。その今言っているところの話が体験に繋がらないとダメだ。やはり海外の人も賢い人たちがいっぱいいるので、何が自分たちの文化に足りなくて、文化に何を足していけばいいものになるかって考えている人もいっぱいいるので、そういうところに話が繋がるというのが多分いいのだろう。そのような話をガイドの人に伝えていかないと、せっかく体験しても、定着してくれる話にならないので、それは作戦で考えたい。だから、こういう話を皆さんずっと聞いといてもらいたい。それが後で、事業化する時に繋がる。そういう見方してもらったらありがたいと思っている。

藤本委員：先程、木の話が出たもので、その関連で話したい。もう最近では街の街中では大工が木を使って家建てるようなことは、ほとんどないと思う。私の関連としては、彫物、彫刻をよくするのであるが、櫓のいいものを使う。それで、身近にはわかるわけだけど、なかなかそういう木も中々なくて、非常に高くなっていて、その辺も寂しいところで、日本文化もなくなるのではないかなと思う。もともと、明石城には大きな木があって、それには必ず風蘭が着いていた。ところが、誰がとったのかはわからないけど、もうほとんどない。また、最近、浜光明寺の今にも崩れそうな立入禁止の山門で植物学者と一緒にうろうろしていたら、ツメレンゲという絶滅危惧種の明石にはない物を見つけて、その学者は大喜びで写真を撮ったということがあった。

村上会長：情報を共有してもらえばと思う。

山下オブ：よく明石城は小さいお城だと言われる。櫓が小さく見えるが、決してそうでもない。三重櫓であることを考えたら、天守級の大きさである。城自体が大きすぎるから、小さく見えてしまうのだ。イメージを大阪城にもっていくとそうになってしまう。いやそうではなくて城の平面積の規模がすごいのだ。大体、中堀から内側は、姫路より広い。姫路は20ヘクタールだが、明石は25ヘクタールある。明石藩が持て余すくらい広すぎる。明石藩単独ではなくて、幕府が整備させているから、規模がでかい。外堀は埋めてしまっているけど、その範囲だって名古屋城級の広さがある。それをもっともっと知ってもらわないといけない。お堀も三段階でカクカクと曲がっているけど、東から順に時間差で埋めていっている。だから、その後の利用の仕方が変わってきて、東は飲み屋さん街ができて、真ん中は国道の拡幅の関係で道に沿うようになっている。それから西側の埋め立てたところに建てた県などの公共施設などはみんな移転している。そんなことがなかなか余り理解されたりしていないので、看板やQRコードなどを使って魅力をもっと伝えたらいいかなと思った。

藤本委員：今お城の大きさのことで浮かんだのだが、鬼門にあたる東北の方向に神明神社がある。そこは観光ルートに入っているのか入っていないのか。神戸市で少し離れているが、立派な三つ葉葵の紋が入っているので、活用に取り込まれるといいかなと思う。

村上会長：お城のことをいろいろ話したけど、南北でつなぐ方向をどうしようということがある。お城と魚の棚とか今の古民家だとか、文化財サイドがなんとなく南北の軸線上にポツポツと置き始めたら人の流れに繋がる話ができるので、そのイメージを追いかけながら考えとかないともったいない感じする。それさえさっきから言うように種作りで作っていたら、心配せんでも人の流れができるので、考えてもらったらいいと思う。この波止場先の灯台だから、もう南端のぎりぎりまで文化財で使えるのだ。だから、そこからずっと北側に南北ラインを作るように拠点づくりをしていけば面白い。100年フードも全部繋げばいいと思う。今日の話をきっかけに皆さんで作っていけばいいと思う。

4. 閉会